

“持ち帰り可能”を示すサンプルケースの提案

Proposal of sample case showing "take-home"

徳村侑果 TOKUMURA Yuka 2018年入学 | 工業設計学科 Department of Industrial Design

分類: 卒業研究

作品/論文: 作品

制作年度: 2022年度

課題概要: 模型

“持ち帰る”を、当たり前。



このケースが、**目印**です。

図1 作品の全体写真

現在問題となっている食品ロス問題に対し、日本独自の文化である食品サンプルを活用できないかと考え、「食品サンプルを活用した食品ロスの課題解決のためのデザイン提案」を目的とし研究を行った。

まず食品ロス問題について行った調査の結果、飲食店における食べ残しなど外食産業による食品ロスが多い事が分かった。またその対策である「食べ残しを持ち帰る」という文化は、海外では浸透率が高い一方、日本ではまだ普及していない事が分かった。

また、食品サンプルに関する調査では、食品サンプルには人の視線を集めるアイキャッチ効果がある事や親しみやすい印象を与える事、直感的に情報を伝えることが出来る事などが分かった。

以上の調査の結果を踏まえ、「食品サンプルを活用した“食べ残しの持ち帰り文化”普及のためのデ

ザイン提案」をコンセプトとして設定した。

最終提案として、食べ残しの持ち帰りが可能であることを表す、店頭で設置するサンプルケースを作成した。300mm×300mm×150mmの吊り下げ型の透明なケースの中を半分に分け、矢印を挟んで左半分が店内の様子を、右半分が家での様子を表現した。左には2種類の食べかけのピザのサンプルを、右には2種類のピザを一切れずつパックに入れて置くことで、“食べ残しの持ち帰り”であることを表現した。今回は洋食店での設置を想定してピザを選定したが、和食店などにも設置しやすいよう食品サンプルの種類は数パターン用意すると良いと考えられる。このケースを設置することで、持ち帰り可能であることを一目で伝えつつ、視線を集めて“持ち帰り文化”を知るきっかけを与えることもできると考える。



図2 使用イメージ